

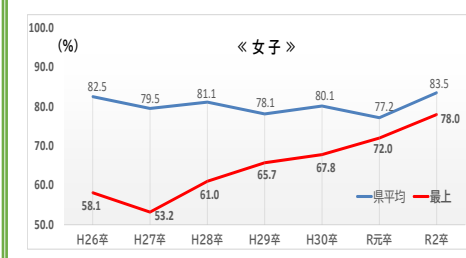
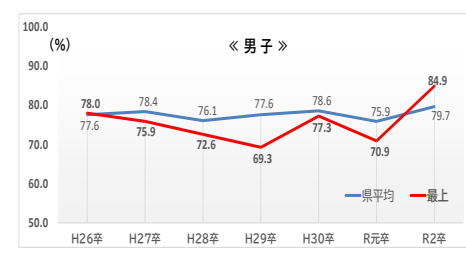
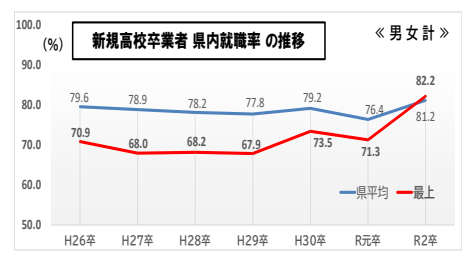
I 若者の地域定着・人材確保

1. 現状と課題

- 最上地域は人口減少に歯止めがかからず、特に15～24歳の転出超過が大きく影響していることから、若者の定着及び人材の確保が喫緊の課題となっている。
- これまでの管内の高校生に対するアンケート結果では、「最上地域に就きたい仕事がない・少ない」「どんな仕事があるのか分からない」という回答が多く、地元企業の認知度と魅力度を高める必要がある。
- 新規高校卒業者（女子）の県内就職率は、これまで県内4地区で最も低かったことから、地元で働き暮らす若手女性社員と女子高校生との交流会等を企画し、地元就職の意識醸成に取り組んできた。
- また、平成29年度に高校生を対象とした「新庄・最上ジモト大学」(*)を立ち上げ、多彩なプログラムを実施している。
- さらに、平成30年度に「オールもがみ若者定着・人材確保推進会議」を立ち上げ、地域の関係機関が一堂に会して連携を強化するとともに、山形大学のキャリア教育に関する知見等も活用して、子どもたちの成長段階に応じた職業観の育成に取り組んでいる。



若手女性社員と女子高校生との交流会



2. 今後の主な取組み

- 小・中学生、高校生の保護者による地元企業に対する理解の促進
 - 小学生親子ものづくり企業見学ツアー
 - ・小学生の親子を対象とした企業見学を行う。
 - 中学校での出張職業体験
 - ・企業等が中学校に出向いて実施する出張職業体験を保護者にも参加見学してもらう。
 - 高校生の保護者を対象とした進路選択セミナー
 - ・保護者会を活用して地元企業の情報を提供する。
- 高校生向けのキャリア教育の充実
 - 新庄・最上ジモト大学(*)の開催
- 大学生等向けの企業の情報発信力強化
 - 高等教育機関と連携した学生採用に向けた取組み
 - ・山形大学、鶴岡高専と連携して、学生に対して企業の魅力発信を行う。
- 企業の魅力度、情報発信力等の向上
 - 高等教育機関と連携した企業支援
 - ・山形大学、鶴岡高専と連携して、企業の技術革新等を支援する。



小学生親子ものづくり企業見学ツアー



中学校での出張職業体験



鶴岡高専との協定式 (R3.3)

II 高規格道路の整備と地域振興

1. 現状と課題

- 最上地域では、縦軸となる東北中央自動車道、横軸となる地域高規格道路の新庄酒田道路の整備が着実に進んでいる。
- 特に、東北中央自動車道については、令和4年までに「東根北IC～大石田村山IC間」が開通することにより、最上地域が全国の高速度道路網とつながる。
- 一方で、本県と太平洋側との物流の円滑化等を図るため、石巻新庄道路の早期事業化が望まれる。
- 高規格道路の整備の効果（時間短縮、交流人口の拡大、定時性確保による物流の円滑化、災害発生時の道路ネットワークの信頼性向上等）を地域活性化に結び付ける必要がある。
- 高規格道路の整備効果を最上地域全体に波及させることを目的に、管内8市町村や関係団体等とともに、ゲートウェイ型「道の駅」の整備に向けた検討を行っているが、最上地域全体としての合意には至っていない。



2. 今後の取組み

- 観光の広域化による最上地域への来訪を促進するため、最上地域観光協議会などと連携し、立寄施設や観光イベントで、最上地域の魅力を県内外に広く周知する。
- 高規格道路の整備による物流の改善をPRして、企業誘致や県外への農畜産物等の販売を促進する。
- 石巻新庄道路については、国土交通省が今月策定した東北地方版「新広域道路交通計画」において、県版の計画を踏まえて地域高規格道路の調査中区間として位置付けられたことから、早期事業化を市町村等と連携して政府に要望する。
- ゲートウェイ型「道の駅」の整備については、新庄商工会議所を中心とした最上地域の経済界とともに、将来の最上地域のランドデザインを検討する中で、ゲートウェイ型「道の駅」の機運を高め、8市町村による合意に向けて取り組んでいく。



建設促進大会



道の駅イメージ (米沢)

* 新庄・最上ジモト大学

新庄・最上地域（今年度から尾花沢市が参加）の高校生を対象に、地域の大人との対話や協働によるプログラムを実施し、地域の魅力や課題を具体的に理解してもらい、地域住民としての当事者意識を醸成することにより、将来の定住や地域の中核となる人材の育成を図っている。

最上地域政策研究所（県・市町村職員で構成）の提言をもとに平成29年度に開始されたもので、これまでの4年間で延べ1,789人の高校生が参加。地域の高校、市町村、産業界、総合支庁が一体となって事業を運営している。



(R3パンフレット表紙)

Ⅲ 最上地域の農林業と東北農林専門職大学（仮称）の開学を見据えた取組み

1. 最上地域の農林業の現状と課題

○ 管内では、米が農業産出額の約50%を占めているが、近年は高収益作物への転換が進んでいる。特に、主要野菜6品目（にら、ねぎ、アスパラガス、トマト、ミニトマト、きゅうり）の販売額は、34億円（R2年度）を上回り主産地となっている。また、畜産は肉用牛が中心で県内の約3割を占めている。



若手ら生産者研修会

○ 管内の森林は区域面積の約8割を占め、蓄積量は25千m³と高く、丸太生産量は県全体の約3割を占めるとともに、2つの大型製材等工場を有する林業地域である。



高性能林業機械による伐採

また、きのこの生産量は県全体の65%を占め、「きのこ王国もがみ」を形成している。

○ 地域農林業の担い手の高齢化や後継者不足、生産性の向上が課題である。

2. 専門職大学開学に向けた現状と課題

○ 学生の卒業後の地元定着や地域の農林業者の意識変化などが期待され、さらに全国から学生が集まることによる市街地の活性化や高校生の進路の拡大、企業との幅広い分野での共同研究等が期待できる。

○ 令和2年7月に市町村、農林業関係者で構成する「農林業専門職大学最上地域連携プロジェクトチーム」を設置して、大学の特徴である臨地実務実習の受入先候補者の選定と、大学所在地域として、大学と連携した地域振興策等の検討を行っている。



最上地域連携プロジェクトチーム会議（R2.7）

・ 臨地実務実習の受入先候補者の選定（令和3年3月末現在）

地域名	農業経営体								林業事業体				合計
	稲作	畑作	野菜	花き	果樹	畜産	その他	小計	素材生産	製材・木工加工	特用林産	小計	
最上	23	1	22	4	—	11	1	62	6	2	4	12	74
山形県	113	2	52	22	59	34	1	283	22	17	7	46	329

※出典：第3回専門職大学基本計画検討委員会（令和3年5月26日開催）

3. 今後の取組み

○ 地域農林業の担い手を安定的に確保するため、総合支庁と農協等が一体となって、高校生と若手農業者との意見交換を通じた動機付けや、農業士から新規就農者予定者への助言、若手農業者の作物別の仲間づくりなど、新規就農者・就業者、若手農林業者の支援や技術指導を強化していく。

○ 学生の地域参加や専門職大学を活用したまちの賑わいづくり等の地域振興施策、また、学生の生活環境整備、学生への応援等の地域との連携協力について、連携支援室と最上地域の市町村企画担当課を中心に、学生支援策として通学手段の確保（バス路線の変更等）や、住居となる空き家活用等を検討しているところであり、今後、専門職大学の基本計画等の内容を踏まえ、具体的な施策について検討していく。

Ⅳ 最上管内のトピックス

1 最上地域政策研究所

8市町村に共通する諸課題に連携して対応していくため、最上総合支庁と市町村、最上広域市町村圏事務組合が協定を締結し、平成24年度に設置した「最上地域政策研究所」が10年目を迎えた。

研究所では、地域の諸課題をもとに2年ごとにテーマを設定して、市町村と総合支庁の職員が共同で調査・研究活動を行い、施策を提言している。



[これまでの研究テーマ]

6次産業化、産業振興・雇用、集落の維持・活性化、地域交通、人材育成・確保、交流人口拡大、克雪対策、高齢者支援、若者の回帰・定着 等

[実現した施策]

新庄・最上ジモト大学(H29)
新庄市営バス
まちなか循環線(H30) 等



2 最上地域オリジナル弁当

(1) 県料理飲食業生活衛生同業組合新庄支部では、5月にさくらんぼ鶏や米の娘豚等の最上地域の食材を盛り込んだ「新庄もがみ美食弁当」を企画し、コロナで歓迎会ができない事業所を中心に530食を販売した。今後は、新庄まつりに合わせて最上の食材を使用した弁当を販売する予定。



(2) 地元3校（新庄南、新庄神室産業、新庄東）の生徒がメニューを考案した「地産地消弁当」の販売イベントを6月6日（日）、「ゆめりあ」にて実施した。アスパラガス、マッシュルーム、最上伝承野菜の「くるみ豆」等、最上産の農産物をふんだんに使用したアイデア満載の弁当で、高校生自らが販売し、用意した150食が約1時間で完売した。今後は、



支庁食堂において高校生考案の「地産地消定食」を提供する予定。

3 スカイランタン、ひじおりの灯（肘折温泉）

東北DC特別企画として7月17日（土）肘折いでゆ館前で開催されたスカイランタンでは、約170個のLEDランタンが夜空に浮かんだ。

温泉街では、「肘折夜市」や「足湯BAR」も同時開催され、また、軒先には自然や景観を描いた灯籠絵「ひじおりの灯」を飾り来場者を楽しませていた。



4 高校生による観光情報の発信（YouTube 動画作成）

最上地域観光協議会では、観光情報を発信する公式YouTubeチャンネル「AMAZING MOGAMI（アメージングモガミ）」を開設した。地元高校生グループ「WATS（ワッツ）」が出演し、最上地域の観光資源の発見、発掘を体験する様子を楽しく発信している。



5 食産業コンソーシアム（仮称）の形成

最上地域の食料品製造業（18社）が県全体に占めるシェアは、事業所数で4.9%と小さくなっている。

また、最上地域を代表する菓子を製造していた事業者の廃業等もあり、この分野の縮小が懸念される。

このため、食品製造業をはじめ、多様な人材、多彩なアイデア・知恵が交流し、新たな名産品の創出につながる「場」づくりを進めていく。



6 支庁若手職員による最上の魅力体験ツアー

新型コロナウイルスにより影響を受けた観光事業の支援と職員同士のコミュニケーションを深めるため、県職員互助会の事業を活用し、最上総合支庁の若手職員による最上川舟下りと幻想の森を巡るツアーの実施（7月末）を企画。

